

下水道業界の若者たちへ未来は 明るい！「パーパス」と「レジリエンス」 で、公私ともに自己実現を！



山口 乃理夫

東亜グラウト工業株式会社
代表取締役社長

1. 「夢」の選択肢はいっぱいある

何年か前の新聞で衝撃的な記事を読みました。「親の世代と子供の世代、どちらの方が幸せだと思うか」のアンケート調査で、10代、20代、30代は自分達の世代より親の世代の方が幸せ、40代でとんとん、50代以上は親の世代より自分達の世代の方が幸せだという調査結果を見ました。私は50代半ばですが、若い頃は自分達の世代の方が親の世代より絶対幸せだと思っていました。今の時代はインターネットやSNSで情報は世界を繋ぎ、我々の生活は飛躍的に便利かつ快適になりました。自分達が子供の頃、「あったらいいな」や「こんな世界になったら面白いな」と思うことの多くは叶ったのではないのでしょうか。鉄腕アトムのように手塚先生が描いた夢みたいな世界が、本当に現実味を帯びてきたように思います。

ところが、です。今の若者の多くは「親の世代の方が幸せに思う」という風を感じているとのこと。便利さの追求が逆効果になっています。若者世代が自分の人生や先行きに期待や希望を持っていない、そんな国に未来があるのでしょうか。

日本の未来について書かれている本を見ると、否定的な側面で書かれているものが多いように思います。人口減少、老老介護、孤独死、環境破壊、などなど。でもちょっと待ってください。肯定的な側面に目を当てると、人生100年も生きられる、情報社会で世界中の人と繋がることが出来、交流が深められる、AIやロボットとの共生で人間の力でできなかったことが可能になる、宇宙旅行ができる、どうですか？

人生の選択肢も、職業一つとっても、ひと昔前か

らは考えられないくらい新しい業種・職種が生まれました。選択肢がいっぱいあるということは、それだけ「夢」の選択肢もいっぱいあるということです。そして、何と言っても100年も生きられるのです！100年単位で自分の人生を考えることができるなんて、「素晴らしい」の一言につきます。ご先祖さまからみたら、きっとこのうえなく羨ましいことだと思いますよ。

ということで、私なりの結論。やっぱり今の10代、20代、30代のみなさんの方が、親の世代、40代、50代よりも幸せなはずなのです。仮にそうでないなら、若い世代のみなさんは、みなさんが理想とする世の中にしていってほしい。そしてみなさんの子供たちの世代が、みなさんより私たちの方が幸せだと感じないような世界にしかならないなら、快適性、利便性を追求するのは止め、人間本来の「生きる喜び」を感じられる時代まで、逆戻りする方がいいように思います。

2. 「なりたい自分」になるために

ではこの状況をどのように変えていったらいいのでしょうか。私はこれまでとは比較できないほど世の中の変化が激しい昨今、一番必要なことは一人一人が自分自身の人生に「夢」や「志」を持ち、変化に惑わされない心や考え方の「軸」を持つことだと思っています。別の言葉で言い換えれば、自分自身の人生における「パーパス（自分の人生の指針）」や「ミッションステートメント（どのような人間になりたいか、どのような人生を過ごしたいか）」をしっかりと作ること。この作業こそが実りある人生を送るための出発点だと考えています。

そして掲げた「パーパス」や「ミッションステートメント」を実現するために、仕事においては自身のキャリア自律（パーパス実現に向けた）を考え、必要となる能力（力）を身につけ、一つ一つ目標をクリアし、更なる高みへと昇華していく。一方、プライベートにおいても怠惰に時間を過ごすのではなく、やはり「ミッションステートメント」実現に向けた「なりたい自分」になるための行動に計画的に時間を割くよう努力する。仕事とプライベートの両方で自己実現を果たすことができれば、親の世代の方が幸せだと思うという考えには決してなりませんよね。

ちなみに私の「ミッションステートメント」は「私と関わった全ての人（家族・友人・仕事仲間）に一つでも（私と関わることで）、その人の人生にプラスの影響を与えること」です。27歳の時に、この「ミッションステートメント」を掲げ、より多くの人にプラスの影響を与えることができるような人材になりたいとの思いから、当時在籍していた会社（積水化学工業）で組合活動に従事したり、ビジネススクールに通ったり、まずは頼られる人材になることを目指しました。同社では営業、経営企画、事業部等、様々な業務を経験させて頂き、感謝しかありません。2017年に転職し、東亜グラウト工業にて経営者（社長）の仕事に8年間従事していますが、これも「ミッションステートメント」実現に向けて、私にとっては非常に重要かつ大切な経験を積ませて頂いていると感じています。

私は「パーパス」や「ミッションステートメント」を実現するために、今の経営者の仕事にいきつきしました。みなさんも是非、自分自身の人生と向き合い、「パーパス」や「ミッションステートメント」を作り、自分の「夢」を叶えてください。みなさん一人一人の「夢」を叶える力が結集すれば、文化そのものを変える力に繋がります。明るい未来を作るのも、暗い未来を作るのも、みなさん次第です。



写真-1 キャリア自律について語る（YouTube より）

3. 自分自身の市場価値を高める

さて「パーパス」の重要性については今申し上げたとおりですが、100年時代を生き抜く上でもう一つ重要な切り口が「レジリエンス」、いわゆる復活力の醸成です。個人で言えば土壇場力という言葉の方がしっくりくるでしょうか。ここでいう土壇場力とは、いわゆる「もしも」の際に、動じない自分を普段から作っておくことを意味します。

先ほども申し上げましたように、世の中の変化は目覚ましく、競争もかつてないほど激しい時代になりました。しかも日本は災害国家でもあります。いつ何時、会社がつぶれるかもしれませんし、自分自身の家庭の事情で会社を辞めなければならなくなる可能性も否定できません。そんな「もしも」に遭遇した場合でも、直ぐに次の職場が見付かるような、世の中に必要とされる、ひっぱりダコな人材になっておくこと。これが私の言う土壇場力や復活力が高い人材のことです。

そのためには日々自己研鑽を怠らず、自分自身の市場価値を普段から高めておくことが大事。資格を取ることもそうですし、人脈を広げておくことや、何か一つでも他の人では出来ない自分ならではの特技を身につけておくこと等も大切です。レジリエンスが高い人材だと自覚すると、それは自分自身の自信に繋がり、更に市場価値を高めることに努力するようになります。そして市場価値が高まれば、自分自身の「パーパス」や「ミッションステートメント」の実現に、より近づいていくのです。

4. 全員のベクトルや思いを一つに

パーパスとレジリエンスの重要性は、一個人だけでなく、企業にもあてはまります。

当社は昨年で67周年を迎えましたが、100年企業になるために大切なこと、そのキーワードはやはり「パーパス」と「レジリエンス」だと思っています。最近、「パーパス経営」が、各企業、各組織において大分意識されるようになってきました。一橋大学の名和先生は、20世紀は、外的に与えられたミッション（使命）からビジョンを構想していく「資本経営」が主流でしたが、21世紀は外的ではなく内的で自発的な「パーパス（志）」から実現可能な未来像を描き、社員一人一人が強い信念を持って行動する、いわゆる「志経営」、「パーパス経営」が求められると話されています。事業には栄枯盛衰がありますし、災害

や新型コロナウイルスのようなパンデミック等で、事業が立ち行かなくなる可能性もあります。そういう時に立ち返る北極星のような指針、全員のベクトルや思いを一つにする指針、それが企業でいうところのパーパスです。またパーパスは「わくわく」「ならで」「できる」の3要素が入っていることが必要条件だと名和高司先生は仰られています。

ちなみに当社グループのパーパスは「地域創生、地域再生の推進。目指すはまちのお医者さん」です。現在当社グループは子会社、孫会社まで含めると14社の集合体となっていますが、目指すべきパーパスは共通しています。一方、レジリエンスに関しては、企業で言えばBCP（事業継続化計画）やコンティンジェンシープラン（不測の事態の代替策）



写真-1 パーパス経営について語る（YouTube より）

5. マクロな最適化へ、「選択」と「集中」

さあ、そろそろ下水道に話を繋げていきたいと思っています（今頃？笑）。

下水道業界において必要なもの、それもやはり「パーパス」と「レジリエンス」に他ならないと私は思っています。下水道業界のパーパス、いまいち、ピンときませんよね（私だけ？）。受益者である一般市民から考えると下水道業界のパーパスという視点ではなく、上水も含めた、いわゆる「水循環システム」まで広く視点を広げた方が、いいように思います。では「水循環システム」のパーパスとは何でしょうか。いろんな考え方があると思いますが、「国民全員に対し、生活に不可欠な「水資源」を安全かつ衛生的に、いついかなる時でも、途切れることな

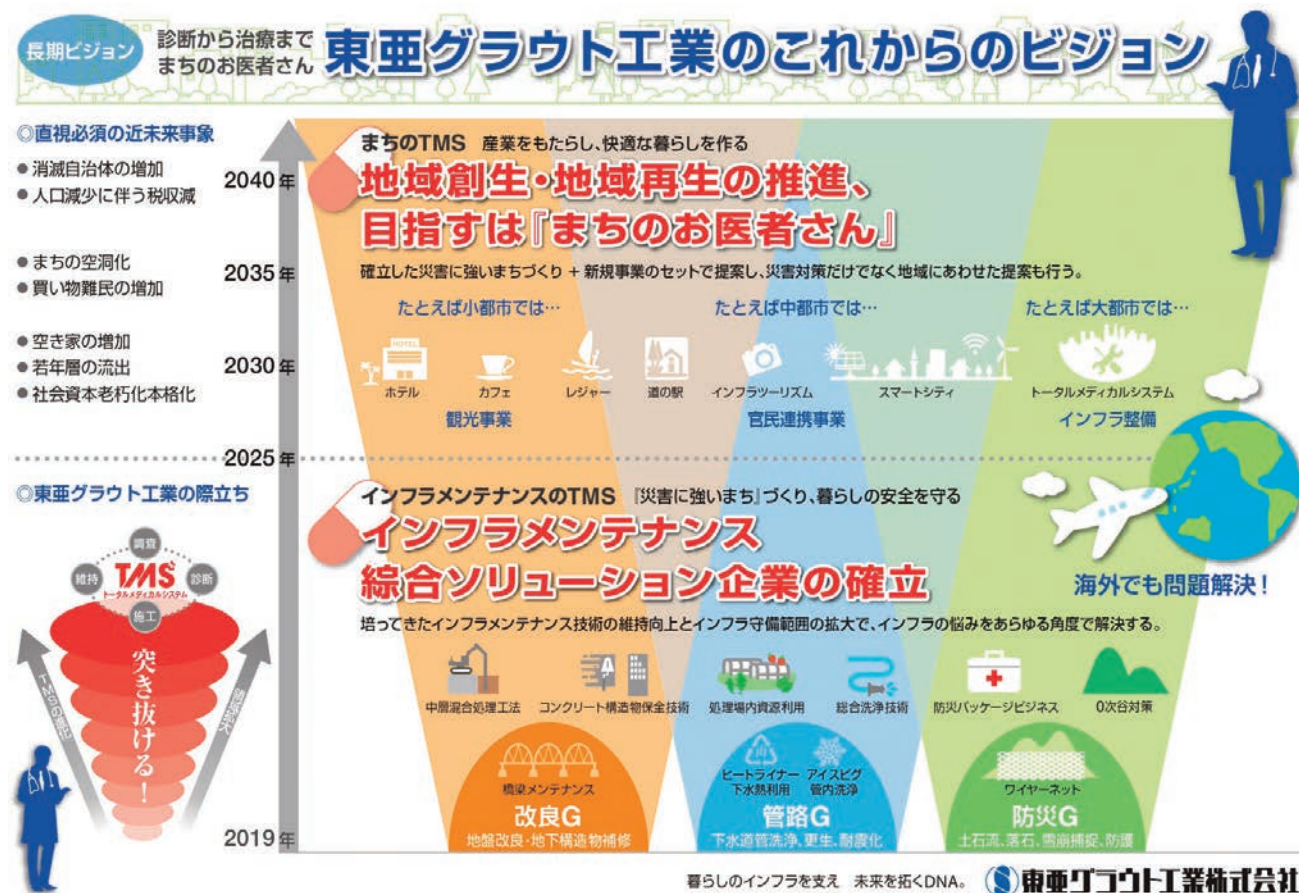


図 東亜グラウト工業株式会社 ビジョン

く、提供する(できれば安価に)」というところでしょうか。あんまり「わくわく」しないですかね？

でも、文面にちりばめたキーワード、「国民全員に」、「いついかなる時でも」、「途切れることなく」が実現できればすごいことです。レジリエンスは「いついかなる時でも」を実現するための、「フレキシブルな体制整備」や「お金の問題を如何に担保するか」等が該当するのでしょうか。

さて、ここから持論をお話したいと思います。いろんな考え方があるのは承知の上で、ご批判覚悟で私の思いを記述します。私は、上述したパーパス実現に向け、大きく課題が3つあると考えます。3つとも根底にある考え方として「選択」と「集中」の切り口があります。1点目は、下水道でいきますと、最適な下水処理網(体制)の再構築です。ヒト、カネ、共に漸減の一途を辿る日本において、先ずは現在未普及のエリアについては、下水道を引くのではなく、浄化槽で対応すること。消滅自治体と目されるエリアの自治体については下水道行政を自治体から都道府県に管轄を移し、大胆な広域化を推進するか、浄化槽に戻す。W-PPPの対象は上記の考え方から、民間が委託を受けやすい規模を確保し(共用人口でいくと最低20万人規模以上)発注頂くこと。今年度より、上下水道とも国土交通省の管轄となりましたが、健全な「水循環システム」を構築していく上では、浄化槽行政も一緒に、よりマクロな最適化を考えて頂きたいと思います。

2点目はテーマの「選択」と「集中」です。老朽施設や老朽管路の更新、更生、耐震化、未利用エネルギーの利活用、同じく下水道資源(汚泥等)の利活用、処理場から出るCO₂の脱炭素化、W-PPPの推進等々、下水道にまつわる課題、解決しないといけないテーマは山ほどありますが、全てやるのは無理ではないですか？

私は上記の中でいくと3つのテーマ、老朽施設、老朽管路の更新・更生、耐震化、W-PPPの推進、これだけに集中して大胆に予算を配分し、取り組むべきだと思います。南海トラフ地震や首都圏直下型地震がいつ来るか分からない中、「いついかなる時でも」「途切れることなく」というパーパス実現の為には他のテーマは、大胆に削ってしまってもいいものと考えます(実現のために先ず最優先にやらないといけないのはデータの電子化)。

3点目は、開発側面です。これもパーパス実現に向けたテーマに絞っていいものと思います。人手不足を解消するためのロボット開発(省人化システムの開発)、同じく人手不足解消を目的とするAI技術・IoT技術の導入、補助金投入はこの2つの領域に

絞ってもいいのではないのでしょうか。決して当社が事業として行っている事業領域に近い分野を優先してほしいという訳ではありませんので、誤解なきよう(笑)。

レジリエンスを考えても、上述した3つのテーマが緊急度・重要度、いずれの観点からも最優先課題であると考えます。もちろんいろんな考え方がありますし、これは私が考えた「水循環システム」のパーパスから導き出した考えですので、パーパスが変われば答えも変わってきます。

ただこれだけは言えます。「水循環システム」のパーパスは「選択」と「集中」の観点からも、必ず必要です。是非、国にはパーパスを策定し、自治体や国民に指し示して頂きたいと思います。



写真-3 社内外で多くの講義をこなす

6. 人生を素晴らしいものに

さていろいろ好き勝手なお話をさせて頂きました。私も普段言いたいことを誌面で書かせて頂き、いい機会になりました。最後にもう一度冒頭に帰り、今の若者たちにメッセージを送ります。私はみなさんが羨ましくて仕方ありません。人生100年の人生設計ができる、実に素晴らしいことです。2027年にはガンも治る病気となり、更に寿命が延びるとも言われています。

ぜひその100年を素晴らしいものにして頂きたい。そのためにも、目標を持たず、怠惰に人生を過ごすことなく、是非、自分自身の「パーパス」や「ミッションステートメント」を作成し、ご自身のキャリア自律を考えてみてください。みなさんの人生が素晴らしいものになることを心よりお祈り申し上げます。そしてみなさんのキャリア自律が「下水道業界」の中で生かされ、「下水道業界」の発展につながれば、こんな嬉しいことはありません。みなさんの未来は明るいです。それでは。